

令和4年度

第4回施設運営検討委員会会議録

千葉県市町村職員共済組合

## 令和4年度第4回施設運営検討委員会会議録

令和4年11月1日千葉市中央区中央港1丁目13番3号オークラ千葉ホテル3階「ウィンザー」において令和4年度第4回施設運営検討委員会を開催した。

### 委員会の目的である事項

- 報告事項1 令和4年度第3回施設運営検討委員会に係る会議録について  
報告書類2 令和4年度第3回施設運営検討委員会の質疑に対する回答について（宿泊経理）  
協議事項1 第1号答申書（素案）について

招集年月日 令和4年11月1日  
委員長 太田 洋

委員の定数は6名であるが、出席した委員は、次のとおりである。

市町村長である議員の委員（2名）

太田 洋  
小坂 泰久

市町村長以外の議員の委員（3名）

須藤 和人  
松本 孝則  
平野 寛

事務局から出席した職員は、次のとおりである。

事務局長	五木田 雅之
事務局次長兼出納長	多田 芳子
参事兼福祉課長	関 裕行
福祉課主幹兼厚生係長	吉野 剛
施設長兼情報管理課長	工藤 誠
施設管理課長兼施設管理係長	白井 貴弘
施設管理課主任主事	兼平 知史

出席した専門員は、次のとおりである。

株式会社パートナーズコンサルティング 大谷 健

## 開 会 （時刻10時25分）

事務局長 皆さま、おはようございます。事務局長の五木田でございます。委員の皆さまにおかれましては、本日は、公務ご多忙のところ、お時間をいただきまして、誠にありがとうございます。定刻前ではございますが、本日出席予定の委員の皆さまがお揃いになりましたので、施設運営検討委員会を始めさせていただきます。それでは、開会にあたりまして、本日の出席状況をご報告させていただきます。まず、市町村長側委員でございますが、本日は、渡辺委員が欠席でございますので、2名のご出席となります。また、職員側委員につきましては、3名全員のご出席をいただき、合計で5名のご出席をいただいております。また、今回も、専門員の大谷様に出席をしていただいております。それでは、只今から委員会次第にしたがいまして「令和4年度第4回施設運営検討委員会」を始めさせていただきます。開会にあたりまして、太田委員長からご挨拶を賜り、その後の進行につきましても、よろしくお願いいたします。

委員長 よろしくお願いいいたします。令和4年度第4回施設運営検討委員会を開催するにあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。委員各位におかれましては、公務ご多忙のところ、ご出席を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、本日、ご協議いただきます内容は、本年度、第1回から第3回目までご協議いただきました事項に基づき策定いたしました、第1号答申書（素案）についてでございます。詳細につきましては、事務局から説明がありますので、ご協議よろしくお願いい申し上げます。開会のあいさつといたします。なお、適宜、専門員である大谷健様の発言につきましても了承することといたします。

委員長 それでは、次第の3、報告事項（1）、令和4年度第3回施設運営検討委員会に係る会議録につきまして、報告をお願いします。工藤施設長。

施設長 はい。施設長の工藤でございます。よろしくお願いいいたします。お手元に資料1として提出させていただいております「令和4年度第3回施設運営検討委員会」に係る会議録についてでございます。こちらにつきましては、事前送付をさせていただいております。その内容と同様のものとなっておりますので、事前にご確認いただいているということによりまして、詳しい説明については省略をさせていただきます。よろしくお願いいいたします。

委員長 ただいま報告のありました、令和4年度第3回施設運営検討委員会に係る会議録につきまして、ご質疑等がございましたら、お願いいいたします。よろしゅうございますか。

(はいの声)

委員長 ありがとうございます。なお、会議録につきましては、当組合ホームページにおいて公開することといたしますので、ご承知くださるよう、

お願いいたします。続きまして、報告事項（２）、令和４年度第３回施設運営検討委員会の質疑に対する回答、宿泊経理について報告をお願いします。白井施設管理課長。

施設管理課長

はい。施設管理課長の白井でございます。よろしくをお願いいたします。では、資料２をご覧いただきたいと存じます。資料の２としまして、第３回施設運営検討委員会の質疑に対する回答についてということで、宿泊経理でございます。恐れ入りますが１枚お捲りいただきまして、①のオークラ千葉ホテルをご覧いただきたいと存じます。こちらの方につきましては、前回の検討委員会の中で、松本委員からご質問をいただきました、千葉市で発券しておりますクーポン券の利用関係につきまして、ご質疑を頂戴しておりましたので、こちらの資料でもっての回答ということでございます。コロナ禍において千葉市で実施されたクーポン券等の利用状況についてというものになります。（１）としまして、各クーポン券等の事業について主に、①、②がございます。まずは①、ちばおもてなしキャンペーンというものでございました。期間は令和２年９月から令和４年３月の期間実施されていたものでございます。続いて②番、現在進行中でございますけれども、千葉市グルメ得トクーポンというものでございまして、令和４年８月から令和５年２月までの予定というものでございます。※としまして、基本的には宿泊者へ市内のレストラン等で利用できるクーポン券、５，０００円分を５００円で販売しているというものでございます。使うときには、レストラン等のクーポン取り扱い店があるわけでございますが、セブンシーズも入っているわけでございます。この利用額の半分をクーポンで支払いができるという性質のものでございます。（２）がオークラ千葉ホテルのセブンシーズでの利用状況でございます。クーポン券の利用状況についてというところでございます。①番の、ちばおもてなしキャンペーン期間累計で、７，９１４枚、７，９１４，０００円分のご利用があったということでございます。このちばおもてなしキャンペーンの時にはクーポン券の額面が１，０００円でございます。続いて②番、千葉市グルメ得トクーポンというものでございまして、現在進行中でございますけれども、こちらの資料では９月末現在利用分ということで集計をさせていただいております。６０５枚、３０２，５００円のご利用が９月末時点であったというものでございます。累計でございます。クーポン券の額面としては、５００円ということで、若干使いやすく変更されているようでございます。今後もこのクーポン券をお泊りの方がご購入いただいて、できればセブンシーズで使っていただくとありがたいと考えているものでございます。では、恐れ入ります。１枚お捲りいただきまして、②番、黒潮荘でございます。こちらの方も、松本委員から鴨川市エリアの状況等についてお話がありまして、まとめたものとなります。黒潮荘と鴨川市の宿泊者数の比較ということで、平成３０年から令和３年まで掲げております。４年分ということでございます。左上から３０年、右隣が元年、下側にいって左が令和２年、右下が令和３年というものでございます。青色の折れ線グラフが鴨川市の宿泊者数の状況、オレンジ色の線が当組合の黒潮荘の宿泊者数の状況となります。左側の軸が鴨川市エリアに入っている人数、右側の軸が黒潮荘の人数ということでございます。今回は山の折

れ線をなるべく近い形にさせていただいて提示をしているわけございまして、これを見ると、4年分ご覧になっていただきますと、黒潮荘と鴨川市に入ってくる宿泊者数のピークであるとか、そういった山なりがほぼ近い形になっていることが見て取れるかと思えます。参考までに、平成30年の1月から4月までは、改修工事期間が入っておりますので、ここはオレンジ色が0ということございまして。それ以外の年は、ほぼ同じということで、やはり8月の夏期期間、こちらの方がピークになっていることが見て取れますし、比較的弱いと言われている月も似た形になっているということが分かりますかと思えます。もう一つは、鴨川市全体になるわけございましてけれども、左側の軸線の数字をご覧になっていただきますと、やはり令和元年のところが、一番最高が12万人という桁があるわけございましてけれども、鴨川市は青いグラフですから、10万人いくかいかないかということがピークであるわけです。令和2年、令和3年の人数、鴨川市に入ってくるそもそもの人数が減っていることがこの数字からも分かっていたかと思えます。そもそもが観光者であるとか、この場合は宿泊者なわけけれども、宿泊者として鴨川市に入ってくる方が、このコロナ禍になって少なくなっているということで、相対的に黒潮荘も同じような形で減ってきているということが分かりますかと思えます。では、私の方からの資料2の説明につきましては以上でございます。よろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。ただいま報告のありました、令和4年度第3回施設運営検討委員会の質疑に対する回答、宿泊経理につきましてご質問がございましたら、お願いいたします。よろしいですか。

(はいの声)

委員長 ありがとうございます。それでは以上で報告事項を終結いたします。ありがとうございます。それでは次第の4、協議事項、第1号答申書（素案）についての説明に入りますが、説明については施設毎に行いますので、ご承知願います。それでは初めに、オークラ千葉ホテルについて事務局から説明をお願いいたします。白井施設管理課長。

施設管理課長 はい。では、よろしくお願いいたします。それでは、お手元の資料3ご覧いただきたいと存じます。本委員会におきまして、この素案をもちまして、答申書とさせていただきたいと考えておりまして、ご提案を申し上げる次第でございます。では、私のほうで読み上げさせていただき、ご説明とさせていただきます。令和4年度答申第1号。答申書（素案）でございます。令和4年6月30日付け令和4年度諮問第1号にて諮問のあったオークラ千葉ホテル温浴施設含む、黒潮荘並びに那須の森ヴィレッジにおける今後の運営について、鋭意調査検討を行った結果、下記のとおり答申します。記としまして、1オークラ千葉ホテル、温浴施設を含みます。（1）としましてオークラ千葉ホテルでございます。①令和4年度の繰入れについてというものでございます。本年度においても新型コロナウイルス感染症拡大の影響が生じており、本年度から実施している直営施設利用助成金の特別加算の効果により宿泊部門を中心に組合

員利用が少しずつ改善している状況ですが、売上の主軸である宴会、婚礼部門においては、コロナ禍前に回復しているとは言い難く、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるキャンセル等も生じていることから、昨年度と同様に当該影響相当分の繰入れを行う必要があるものです。続いて、②令和5年度以降の運営についてというものでございます。令和5年度以降においても新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、施設収入の主軸である宴会、婚礼部門の売上が回復するかは不透明な状況であることから、宴会、婚礼部門の売上が回復するまでは、非常勤職員への短期給付等の適用拡大による組合員数の増加や国際市場の回復が見込まれる令和6年度以降に向けて、インバウンド、訪日外国人観光客でございまして、こちらの取り込みを図ることにより、短期的には比較的早期に施設利用者の回復が見込まれる宿泊部門を中心に売上増加を図るなど需要の変化を見極めながら収支均衡となる施設収入を早期に達成することが収支改善に向けての当面の目標であるとともに、経営努力により実現の可能性は十分にあるものと思料されます。また、繰入金については、現下の大変厳しい状況に鑑み、令和3年度答申を踏まえ、引き続き減価償却費及び固定資産税の一部として現状どおり1億5千万円の繰入れが妥当であると考えますが、その額の縮減に努める必要があるものです。続いて③、維持及び保全計画等についてというものでございます。施設の維持及び保全計画等については、建物診断調査の結果を踏まえ、優先度の高い設備機器類を中心に入替更新を計画的に進め、施設の適切な維持及び保全に努めてください。なお、その費用については、収支改善状況を踏まえると特別修繕引当金を取り崩して充当することが適当であり、単年度毎の事業計画及び予算において計上のうえ、執行することが妥当と考えます。恐れ入ります、1枚お捲りいただきまして、2ページをご覧くださいと存じます。(2)としまして、温浴施設スパ・スカイビューでございまして、令和3年度の答申を踏まえ、令和4年度以降の繰入金については、財源率の1,000分の0.1程度を上限に、毎年度収支均衡を図っていくこととされましたが、引き続きその額の縮減に努める必要があるものです。併せて、経費節減に努めながら、積極的な利用促進を図っていくことが必要ですというものです。1のオークラ千葉ホテル、温浴施設を含むこちらについての説明は、以上でございます。よろしく願いいたします。

委員長 はい、ご苦労様でした。ただいまの説明につきまして、ご質疑がございましたらお願いします。なんでも結構です。はい、須藤委員。

須藤委員 須藤です。いくつか、教えていただきたいことがあります。1つは、繰入れの金額というのが、概算で結構ですけれど分かっていたら教えていただきたいというのが1つと、先日、久しぶりにここに泊まらせてもらいました。レストランが7時もしくは、7時半にオーダーストップというのは、そのあと非常に寂しくて、レストランに人が本当にいない状況が目で見えて感じました。やっぱり今の状況を考えるとコロナの関係もあると思いますけれど、7時とか7時半でレストランのオーダーストップというのは、ちょっと気になるのですけれど、宴会、婚礼部分の売り上げ回復と言っている中でも、レストランについてもその辺のことを考

えてあげないといけないのかなと思うので、その辺のお答えをしてほしい。それから建物診断が11月末まで調査中で、一定の結果が出ると思いますけれども内装についてどのようになっているのか。相当、絨毯も含めて、痛んでいるように思うのですけれど、内装の改修等は、考えているのかどうか教えてください。

委員長 はい、白井施設管理課長。

施設管理課長 はい、ありがとうございます。3点ほどお話があったかと思います。繰入金というのは新型コロナウイルス感染症拡大による影響相当分の追加繰入額ということで、よろしかったでしょうか。現状、概算でございますけれども、オークラ千葉ホテルにつきましては、約2億円ほどの追加繰入れが考えられるところでございます。ただ、かなり厳しいケースを想定しており、その額を上限として事務局は考えております。続きまして、レストランのラストオーダーの時間帯というところでございます。現状19時、若しくは、土曜日等は状況によっては、19時半というところもあるわけですが、仰るように、お客様の入り込み状況から考えますと少し早い時間帯ではないかなというところはございます。今後、オークラ千葉ホテル委託先であるオークラさんと協議させていただきまして、少しでもお客様のご利用が可能になるよう時間帯の拡大も含めて検討をさせていただきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。続きまして、内装関係のところでございます。現在、建物診断、老朽度診断というのを行っております。途中経過の段階ではやはり外壁だとか外回りを中心にかかなり金額が掛かるのではないかと中間的な速報の金額をいただいているところでございます。今、進めているところでございますが、途中報告ではあるのですけれど、どちらかという内装系というよりは、配管だとか設備系、機器物ついて、費用が掛かかりそうだという話をいただいているところもございまして、現時点ではまだ、絨毯とかにつきましては、お話のほうをいただいているわけではないわけではございますけれども、全体を精査させていただきまして、優先度の高い箇所を中心に特別修繕引当金を活用しながら対応をさせていただきたいという考えでおります。以上でございます。

委員長 はい、どうですか。よろしゅうございますか。できるところから更に売り上げのアップを図るように努力してください。それでは、続きまして黒潮荘についてお願いいたします。白井施設管理課長。

施設管理課長 では、引き続き2ページの黒潮荘に入らせていただきます。2としまして、黒潮荘でございます。(1)令和4年度の繰入れについてというものでございます。利用率については、行動制限の緩和や直営施設利用助成金の特別加算の効果もあり、改善傾向にあるものの、いまだ引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大や、台風14号の影響により、繁忙期である夏期期間でキャンセル数が増加したものです。このことから、運営に必要な資金の不足額の増加が生じた場合には、昨年度と同様に当該影響相当分の繰入れを行う必要があるものです。続きまして、(2)令和5年度以降の運営についてでございます。令和5年度以降について

は、収支改善、施設収入の増加により、当期利益金が生じるよう取り組むことが最優先、重要課題と考えます。そのためには、なお一層の利用促進、利用率の向上に努めていくことが必須であり、施設の総合的な商品力の引き上げの他、利用に繋がる施策をし、収支を改善していくことが急務な状況です。具体的には、売上増加策として、令和4年6月限定で実施した高単価宿泊プランに利用率、施設収入を引き上げる効果があったことから、今後も周知・定着化を図り、新たな高単価プランの販売や更なるリピーター増加に向け、「黒潮荘」を思い出してもらえるような南房総鴨川だからこそ提供できる印象深い食事メニューの開発をするなど売上増加に取り組む必要があるものです。次に、非常勤職員への短期給付等の適用拡大による組合員、新規採用組合員の他、施設を利用したことのない組合員等も少なくないことから、利用喚起を促すプランの提供や、「共済だより」でのPR方法を検討し、より効果的な情報発信を行うなど新規需要の開拓に努める必要があるものです。施設運営においては、地元観光協会や旅館組合等との連携が必須であり、協同しながら、鴨川市全体の観光をはじめ、旅館・ホテル業界が発展、活性化するように取り組んでいくことが必要であります。黒潮荘近隣地域においては、東京オリンピック後に子供たちにも人気のあるサーフィンなどのマリンスポーツ体験プログラム等の施設やレジャースポットがあることから、利用しやすい環境を整備するとともに、社寺仏閣、歴史探訪などについても近隣市町村とも連携し、観光情報、紹介等を共同し紹介のうえ、利用の際の宿泊利用の促進を図る必要があります。これまで以上に積極的な普及宣伝活動に真摯に取り組み、売上の最大化に努められたい。恐れ入ります、3ページをご覧いただきたいと存じます。(3) 欠損金補てん積立金の目安についてでございます。改修工事を実施した平成30年度以降、改装効果により利用率が向上したものですが、翌年の自然災害や新型コロナウイルス感染症拡大の影響などにより、令和3年度決算まで、諸経費が売上高で賄いきれない状況が続いています。このことから、令和3年度答申を踏まえ、平成24年度開催の施設運営検討委員会の答申事項である「諸経費が売上高で賄いきれないのであれば、施設の総合的な商品力が利用者ニーズを満たしていないと断ぜざるをえず、その場合には厳しくとも施設の廃止に向け検討すべきであります。」との事項について、検討・協議した結果、当該施設を維持・運営していくためには、1億円以上の欠損金補てん積立金が必要であると思料され、欠損金補てん積立金の年度末残高が1億円を下回るが見込まれる場合には、運営が困難になることから、施設を休止せざるを得ないと判断するものであります。ただし、先述の売上増加策をはじめ、収支改善に向けた検討の余地もまだあることから、その取り組みをさらに強化し、組合員等の福利厚生施設として存続できるよう、共済組合事務局を始め、施設職員及び運営管理業務委託会社の真摯な取り組みを求めるものであります。2の黒潮荘につきましてのご説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いたします。

委員長 はい、ご苦勞様でした。ただいまの説明につきまして、ご質疑がございましたら、お願いたします。はい、松本委員。

松本委員 2ページの令和5年度の運営についてということで、下の方、施設運営について、地元観光協会と旅館組合と連携が必要でありということを書いてありますが、これ活性化を踏まえて必要でありと書いてありますが、今後やっていく予定なのかと、あとマリンスポーツ体験プログラムやレジャースポットも利用促進を図る必要がありますと書いてありますが、これもやるのかどうかもお聞きしたいと思っています。お願いします。

委員長 はい、白井施設管理課長。

施設管理課長 はい、ありがとうございます。地元観光協会、旅館組合との連携というところで発展、活性化という取り組みでございます。とりわけ旅館組合さんですね、黒潮荘につきましては、やはり一般取り込みの制限といえますか、制約というか、そういうものがまだ残っております。まずは、こういったところを旅館組合との会合であったり、協力関係の方を今まで以上に強化して一般客の制限をない形にもっていきたいという働きかけをしていくのが、今後の黒潮荘のプラス効果になっていくと事務局としては、考えておりますので、ここを強化していくという考えでございます。引き続き努めていくものです。また、マリンスポーツ体験などです。黒潮荘をご利用いただいた方が、どうしても鴨川市の中ではシーワールドがトップクラスに遊園施設を使っているというのがあるのですが、遊園施設の券を使える場所を少しでも増やして、黒潮荘を拠点として、遊んでいただけるファミリーの方であったり、組合員の方が使っていただける施設を増やしていくという考え方でおります。今回はサーフィンの方で、やっていただけるような目途がついてきたものですから令和5年度からのスタートに向けて実際に動いている状況でございます。回答につきましては、以上でございます。

委員長 はい、松本委員。

松本委員 ちょっと厳しい言い方をされるかもしれないのですが、マリンスポーツ、レジャースポットをやっていくということであれば、これは図る必要がありますと書かれてしまうと他人事みたいになってしまうのですよ。ここは、図りますのほうがいいのではないかと思います。他人事に感じてしまうので、図りますのほうがいいと思います。どうでしょう。

委員長 はい、白井施設管理課長。

施設管理課長 ご指摘ありがとうございます。事務局としても図ってまいりますので、図りますと次回の案のところではですね、修正のほうをさせていただきたいと思います。

委員長 積極的にやっていきますね。はい、他にございますか。はい、須藤委員。

須藤委員 2,000円の効果で集客が増加し始めている。これが、例えば3,000円、4,000円となってくるともっと増えるような気がするのだけれ

ど、保健経理との関係もありますけれども、その辺、どのように考えていくのかと、予算の段階で1億6,000万円の目標を立てている。でも、1億6,000万円をクリアしても欠損金が出ている状況というのは、予算を作る段階でおかしいのではないかと思っているのですけれど、その辺、どう事務局が考えているのかというのと、欠損金積立金があと3億か4億くらいだと思ふのです。それが、毎年のように6,000万円、7,000万円というような欠損金が出てくると、あつという間に1億円を下回る気がするのですが、そこら辺、事務局として、これだけでは甘い気がするんです。要は、言いたいのは、この間、施設研修で行かせてもらった松島にしても全国理事会で懇親会をもった中で、大阪にしても、北海道にしても繰入れをしているんです。松島で9,000万円、大阪では約1億円くらいのお金を繰入れしている。でも、千葉の黒潮荘については、繰入れができないというのは、ちょっと納得がいかないのです。職員議員何人かと話をしている中でこの機会に総務大臣の金子さんあてに嘆願書を出そうじゃないかという話が出ていて、それがまだ、現実化するか別にしても、そんなことも考えていかないと、いけないのではないかと思っている。要は、繰入なしでは、福利厚生施設というのは、やっていけないのではないかという思いがあるんです。先日も経営改善の要素は、十二分に存在するといいいながら、1億円切ると休止だよというのは、なんか組合員に対してうまく説明ができないのだけれどもその辺どのように事務局は考えているのか教えてください。

委員長 はい、関福祉課長。

福祉課長 福祉課の関でございます。特別加算の助成金の関係でございます。特別加算は当初の事業計画を超える多くの組合員とご家族の皆様にお得に直営施設をご利用いただくことで、3施設の収入を増加させるという効果があったものでして、組合員の助成金の加算と組合員の施設を守る観点から、とても意義のある取組みだったと評価しています。繰入れが行えない施設にとっては、助成金制度の拡充によって、利用者増を図ることが、当該維持に必要不可欠だと改めて考えております。他方で、特別加算の延長ですとか、拡充または、恒常化というようなことで、他の保健経理、保健の事業の拡充を阻害してしまったり、保健経理の財源を引き上げるということがあってはならないと考えております。高齢者医療拠出金の増加等によって短期経理の財源が高い水準となっておりますので、保健経理の財源率はできるだけ維持し、その中で、効果的な資源配分を行っていく必要があると考えています。よって、非常勤職員への短期給付適用による収支のバランスの変化等も検証したうえで、特別加算の延長、恒常または、拡充等の提案については改めて行いたいと考えているものでございます。以上でございます。

委員長 はい、白井施設管理課長。

施設管理課長 はい。続きまして、2点目の質問の1億6,000万円に対して、最終的には赤字予算というものでございます。こちらの考え方でございますが、こちらの方につきましては、令和3年度の検討委員会から引き続

き令和4年度の中でもご検討いただいている資料の中でご説明のほうをさせていただいているところではございます。現状このコロナ禍の中で売上をまず回復していかないといけないというのがございます。黒潮荘の現状の最終目標としましては、令和6年度2億円、まずはここをとにもかくにも目指していくというのが肝要かと思っております。1億6,000万円というのは、令和元年度ベースの売上高でございましたので、コロナが落ち着いて、利用の客足の方が、また経済が回ってくれば、十分可能である数字ではないかと思っておりますし、回復してから当然それ以上の売上に上げていくということが必要だということを事務局は持っております。現状、感染者が伸びたり、落ち着いてきたりの繰り返して、売上を元に戻していくという観点での売上目標でございますので、ご理解をいただきたいと考えております。以上でございます。

委員長 はい、工藤施設長。

施設長 はい、繰入れの部分についてのお話でございます。繰入れの経過等につきましては、各県施設で様々な金額等、経過等踏まえて今現在の繰入額というような部分、それから、繰入れを行う、行わないというような形になっている状況でございまして、黒潮荘の今までの経過の方をこれまでご説明させていただいてきたところですが、やはり改修工事の際に、承認事項にされました、年度毎の繰入額の削減を約束され、それに基づいて収支計画をやっていきなさいというような部分で改修工事を承認いただいた経過があるものでございまして、そういった中で、繰入金無しに今後運営していく部分においては、令和4年度で収支の状況等踏まえて、欠損金補てん積立金の状況を踏まえた場合どういった形が平成24年度からの引き続きの事項について、整理すべきかというところをご協議いただいたところではございまして、欠損金補てん積立金については、1億円という部分を本委員会の中でご理解いただいたと思っております。やはり、今年度を最後に600万円という形になりますが、令和4年度が最後で来年度から繰入金無しという承認事項があったわけではございます。やはり2ページの運営のところにも書かせていただきましたが、やはりこういった決意をもってですね、今一度経営努力、それから普及宣伝等を行ってまいりまして、努力してまいりまして、基準額にならないように努力するのが最優先、重要課題にと考えたわけではございまして、このようにご提案させていただいたわけではございます。今後、そういった中でですね、1億円に達する度合いといいますか、そのような状況が来るのかどうかという部分は、まず、この2ページに書かせていただいた、運営についてという部分、努力していくことが最優先だと考えておりますので、現段階についてはやはり繰入れについては、やはりこの承認事項に従って行っていくのかと思っております。今後、改善されて、もう少しで収支均衡、独立採算という部分が見えてくる状況で、繰入れについてというところが議論できるのかなとも感じているところはございますが、現段階では、承認事項に従いまして、欠損金補てん積立金の目安の方をご協議いただいたところではございますので、そうならないように2ページの運営について精いっぱい努力していくことが最優先、重要課題と捉えているところでございます。以上でございます。

委員長 はい、須藤委員。

須藤委員 厳しい言い方かもしれませんが、3施設として繰入れ無しで本当にやっていけるのか、事務局としてどういうふうを考えているのか。確かに経営改善の要素は十二分にあると言っているのだけれども、その前提にあるのが、10万人の施設なのです。組合員が大事にしている10万人の施設を繰入れ無しで本当にやっていける自信があるかどうかだけ教えてください。

委員長 はい、工藤施設長。

施設長 現段階では、厳しいというような状況を持っているというところはございます。ただやはり、今置かれている立場、状況を踏まえて黒潮荘については、運営していかなければいけないというような意思がございますので、これについては、やはり精いっぱい努力をすることによってと考えているところでございます。以上です。

委員長 よろしゅうございますか。他にご意見ございますか。それでは、黒潮荘につきましてはこれで質疑を終結いたします。続きまして、那須の森ヴィレッジについてお願いします。関福祉課長。

福祉課長 那須の森ヴィレッジについてご説明させていただきます。(1)令和4年度の繰入れについてでございます。令和4年度は、行動制限の緩和や直営施設利用助成金の特別加算の効果もあり、7月中旬ごろまでは、事業計画で目標とした利用率60%への回復が見込める傾向が現れていたのですが、その後、第7波の新型コロナウイルスの感染拡大、また、9月においては、台風14号等の天候の影響も加わり、夏期期間以降の利用予定者に多くのキャンセルが生じたものです。このことにより、本年度においても事業計画に対して、運営に必要な資金の不足額の増加が生じた場合は、昨年度と同様に施設のこれからの維持及び保全に係る費用などを考慮する必要があることから、当該不足額の増加額に相当する繰入れを行う必要があるものです。(2)長期的な維持に向けての評価・検討についてでございます。非常勤職員への短期給付等の適用拡大、また、直営施設利用助成金の特別加算の効果測定を行う必要があることから、令和5年度までの利用率の改善状況等について、令和6年度以降に評価を行うことが必要です。当該評価において、長期的に維持していくことが望まれる施設だと評価された場合は、令和3年度の答申を踏まえ、令和7年度以降の利用料金の見直しとともに、閉所期間の維持管理に係る費用相当額の繰入れの再開などについて検討を行う必要があるものです。(3)保全計画等についてでございます。令和3年度答申を踏まえ、今後中期的には修繕費による維持・保全対応を行うことが適当であるものです。また、施設建物及び設備等の経年劣化による大改修やリニューアルを行う必要性が生じた場合においては、引き続き相当額の繰入れを行う必要がありますが、施設や設備の老朽化が進んでいることから、令和5年度において、建物診断を実施し、今後長期的に必要となる維持及び保全のための修繕等を要する箇所の特定制と当該対応に係る費用を把握

することが必要です。なお、大改修やリニューアルを含めた長期的な維持・保全計画（維持投資内容等）については、当該診断結果を基本資料とし、令和6年度以降に行う上記（2）の評価に基づく、長期的な経営方針（利用料金の見直し、繰入れの再開など）とともに策定する必要があるものです。以上でございます。

委員長 はい。ご苦勞様でした。ただいまの説明につきまして、ご質疑がありましたらお願いいたします。はい、須藤委員。

須藤委員 一つだけ教えてください。閉所期間の2,000万円の繰入れプラス利用料金の引き上げをやるということでのいいのですか。

委員長 はい、関福祉課長。

福祉課長 はい。繰入れですけれども、現時点においては、赤字の半額相当部分の2,000万円の繰入れと、残りの部分はこの間、利用料金の引き上げということで議論をしてきたわけなのですけれども、まずは特選料理など、料理のメニューをグレードアップするなど、現地で消費されるメニューに価格帯が少し高いものを導入したりというようなことから始めて、施設収入を上げていくことができると考えています。そこで、2,000万円の繰入れと施設収入が上がってくること。那須の方は、今年度は60%にかなり近づいてきていますが、来年度は更に利用率を上げていきたいと考えております。その中でバランスが取れば、2,000万円の繰入れと、消費メニューのグレードアップということで対応できればと考えております。以上でございます。

委員長 はい、須藤委員。

須藤委員 前回の議論だと、5,000円相当上げれば現状でも維持できると聞いたのだけれども、そうではないのですか。5,000円相当上げれば今の施設は維持できていく、というだけではないのか、やはり。閉鎖期間の2,000万円の繰入れも必要だということなのか。

委員長 はい、関福祉課長。

福祉課長 はい。仮に繰入れが無ければ、繰入れが全くできないという背景の元で、現状の60%を維持した中で収支均衡を図るのであればという、極めて限定的な条件の中で、収支均衡を図るのであれば、利用料金はいくらだというご質問を受けた中で、5,000円程度の引き上げが必要だというような議論であったと理解しております。以上でございます。

委員長 よろしいですか。

須藤委員 はい。

委員長 他にございますか。よろしゅうございますか。それでは那須の森ヴィレッジにつきましては、質疑を終結いたします。それでは、施設毎にご

確認、それと様々なご意見をいただきましたが、もう一度全体を通して、ご意見等ございましたらお願いいたします。はい、松本委員。

松本委員 はい。最後にということですがけれども、先ほど大谷専門員とお話しをしたのですが、この、今の黒潮荘、オークラ千葉ホテル、那須の森ヴィレッジと、これだけ繰入れているということは、民間であればとくに潰されているという状況でございます。ただし、この3施設は共済の施設です。ある程度繰入金がないとやっていけないということも十分分かってはいます。で、答申の中にいろいろと書いてありますけれども、やはり事務局だけが頑張るのではなく、我々職員議員も共済施設の利用促進を促していかなければいけないと思っております。潰すということは簡単です。それを維持させることは大変なものだと思っておりますので、今一度、事務局も大変だけれども、我々も一段と協力してまいりますので、どうかよろしくをお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。他に、ご意見はありますか。小坂さん何かありますか。

小坂委員 この3施設とも、福利厚生施設であって、また、黒潮荘みたいに一般の宿泊が制限されているという状況でありますと、組合員の健康保持と、そういうものを改善するためには、最大限努力して、維持していくべき施設だと私は考えております。ですから、宮城に行った、松島を見ても繰入れ、先ほども須藤委員のところ議論がありました。繰入額、他はかなり多いということで、それで向こうの保健経理がどうなっているのか、その辺のところも分析してみる必要があるということで、総務省から色々、条件を付けただけで「はい、分かりました。」というわけにはいかないのではないかと思っております。個別に議論するわけではございませんが、総体的に考えた感じがそういうことではございますので、一つよろしくをお願いいたします。以上です。

委員長 はい、他にございますか。よろしいですか。はい、ありがとうございます。以上で協議事項を終結いたします。様々なご意見ありがとうございました。それでは、次第の5 その他 につきまして、事務局から提案等がありましたらお願いします。

委員長 はい、工藤施設長。

施設長 はい。その他といたしまして、今後の日程等につきまして、ご提案等をさせていただきます。次回、第5回目につきましては、11月24日（木）午後4時から、当オークラ千葉ホテルにおいて開催させていただきます。本日もご協議、ご議論いただきました内容によりまして、一部修正等があったかと思っておりますので、こちらの方をさせていただきます。答申書案を提示させていただきます。ご確認いただく形になりますので、よろしくをお願いいたします。以上でございます。

委員長 はい。委員の皆さま、何かございますか。よろしゅうございますか。

(はいの声)

委員長 ありがとうございました。他に無いようでございますので、以上をもちまして、令和4年度第4回施設運営検討委員会を閉会とさせていただきます。委員各位におかれましては長時間に渡り大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

閉 会 (時刻 1 1 時 2 0 分)

令和4年11月14日調製